

里地・里山 だより

活動報告号 2025 春

発行
里山フォーラム in 麻生
川崎市麻生区万福寺 1-5-2
麻生市民館気付け

- もくじ P1 第19回わたしのまちのホッとする風景写真展
 P2 P3 “2025 里山フォーラム in 麻生” 第1部、第2部
 P4 “2025 里山フォーラム in 麻生” から
 P5 P6 P7 P8 里山こどもクラブ
 P9 P10 里地・里山カフェ塾（からむし講座、万福寺人参）

第19回 わたしのまちのホッとする風景写真展（今編、昔編）

寄せられた132点の作品からは、足もとの自然に誘われ、まちを歩いて見て出会った自然暮らし出来事などが映し出されていました。昔の写真も貴重なものが提供され、麻生区の里山の歴史が蘇って来ます。展示は麻生市民館のウォールギャラリーで2月10日～3月12日まで行いました。《受賞作品の紹介》（本写真展はコンテストではありませんが賞を設けています。）



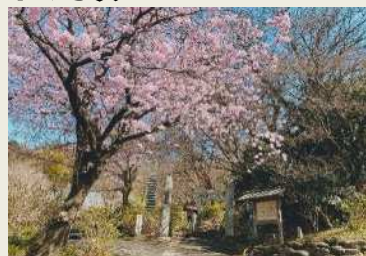
麻生区長賞 長津 徹
 「小田急多摩線 栗平-黒川-永山 今 昔」全6枚
 その内の一組【谷戸の森を行く】 黒川-小田急永山



麻生市民館長賞 真下 智彦
 【メジロ花に舞う】
 王禅寺ふるさと公園



ホッと賞



白井 敏彦【春の幕開け】
 上麻生 浄慶寺



安藤 敬【静かな秋】
 黒川

里山フォーラム賞

鈴木 秀雄
 「万福寺の森 今・昔」
 全6枚
 ・万福寺の西より新百合ヶ丘方面を見た森の全景
 ・斜面の畑から縄文土器出土万福寺人参の栽培地



植田 聡子【水仙に囲まれて】
 上麻生 おっ越し山ふれあいの森



里山フォーラム賞
 井上俊夫氏提供
 「柿生隧道(トンネル)工事の様子」
 全6枚
 写真上はトンネル上から上麻生方面を、下は真福寺方面を臨む



特別賞 井上 康輔「開発前の山口谷戸全景」



大倉 正直【ドンド焼き、地元伝統の準備】

一貫して岡上を
 撮り続け（百寿
 記念）

2025 里山フォーラム in 麻生

3月2日(日曜)

麻生市民館
大会議室



第24回となるフォーラムは金程中学校吹奏楽部43名による力強い素晴らしい演奏で始まりました。踊りのパフォーマンスもあり会場は大いに湧きました。誰もが元気と勇気を得ての開会となりました。



東柿生小6年生が早野の里山での取組みから考えたこと繋ぐことの大切さを発表



虹ヶ丘小5年生は野菜とお米を作り、そこから展開した豊かな総合学習の発表



柿生小5年生は柿生の里で四季の里山体験をし、それぞれの持つテーマを発表



岡上小6年生は丸山の竹でみんなが登りやすくなる階段を作ったことなどを発表



麻生区長
山本奈保美

堂前代表の挨拶に続き、山本区長からのエール、岸副区長の感動しているとの感想、そしてそれぞれの立場からの励ましの言葉をたくさん頂きました。



副区長
岸武二



麻生市民館
館長 相澤悟



環境局企画課 課長 藤田晃央



緑化フェア推進室 担当課長 矢口菊子

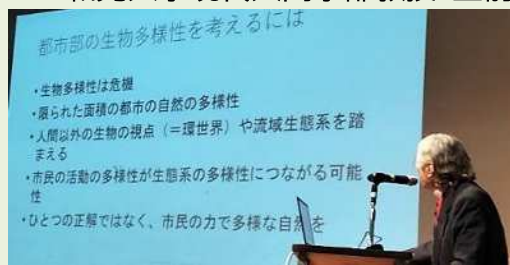
プログラム

- 9:30 一般受付開始 総合司会 石井よし子
- 『フォーラム資料集24』配布 ポスターセッションと交流
- 10:00 第1部
- 柿生の山伏 高橋昂希 先導
- オープニング 金程中学校吹奏楽部 演奏
- 挨拶 里山フォーラム in 麻生代表 堂前雅史
麻生区役所区長 山本奈保美
- 子どもたちの発表「私たちが地域とともに学んでいること」
- * 東柿生小学校「KEEP THE 里山大作戦」
- * 虹ヶ丘小学校「虹ヶ丘特産品 ～輝け 地域と虹の架け橋～」
- * 柿生小学校「柿生の自然」
- * 岡上小学校「スマイルプロジェクト ～未来へつなぐ丸山～」
- お楽しみワークショップ
- * △クロジ(無患子)で遊ぼう! * 炭に触って、切ってみよう (昼食休憩) ポスターセッション
- 12:45 第2部
- 第19回 わたしのまちのホッとする風景写真展
今編、昔編 表彰式
- 挨拶 麻生市民館 館長 相澤悟
環境局企画課 課長 藤田晃央
建設緑政局緑化フェア推進室担当課長 矢口菊子
- 基調講演 「生物の多様性と活動の多様性」
堂前雅史 和光大学現代人間学部教授
- 展示団体・施設によるトークリレー
「みどりを守り、環境を守って 次への一步を進めよう！」
- ◎ 麻生の地元農産物紹介 お野菜当選番号発表
- 15:10 閉会

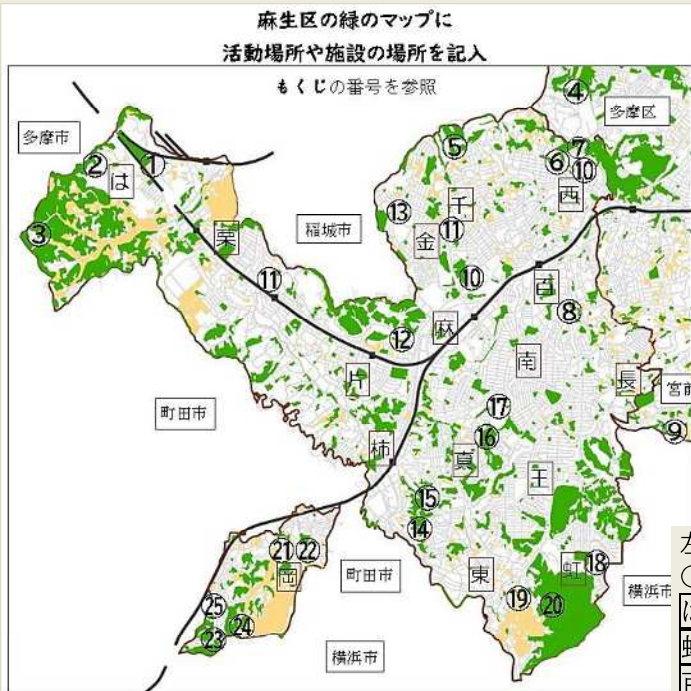


みどりを守る・環境を守る
いのちをはぐくむことを大
切にする方々が一堂に会し
ている会場で第2部開始。

基調講演「生物の多様性と活動の多様性」 和光大学現代人間学部教授 堂前雅史



江戸時代の絵本から雑木林の管理を紹介して頂い
たりしながら、雑木林≠薪炭林、農用林としての
「里山」という言葉は新しく、実はいろいろな里山
があることが分かりました。そして生物多様性は
危機の状況にあるが、市民の多様な活動による緑
地の生態系の多様性が、麻生区独特の生物多様性
をつくるのではないかと話されました。
かわ道楽はハリギリを大事にしているがハリギリを好
むチョウがいるそうです。



左図は『2025 フォーラム資料集 団体施設の活動紹介冊子』より
○活動場所や□小学校の位置が分かります。
はるひ野小 □栗木台小 □片平小 □柿生小 □岡上小 □東柿生小
虹ヶ丘小 □王禅寺中央小 □真福寺小 □南百合丘小 □長沢小
百合丘小 □麻生小 □金程小 □千代ヶ丘小 □西生田小

展示団体によるトークリレー (参照:『2025 里山フォーラム in 麻生資料集 24』)



万福寺人参友の会



麻生ヤマユリ植栽普及会



グループ「せっけんの家」



かわさきかえるプロジェクト



麻生区クールアース推進委員会



和光大学地域連携研究センター



NPO かわさき自然と共生の会



和光大学・かわ道楽



早野聖地公園里山ボランティア



があでん・ららら



吹込クローバーの会



花と市民参加の会



まちはミュージアム・遊歩道ファンクラブ・柿生の里クラブ



森もりクラブ



あさおプレーパークを創る会



あさおプレーパークを創る会



はぐるま稗原農園



高石みどりの会



麻生多摩美の森の会



多摩美みどりの会



水辺のある里山を守る会



はるひ野里山学校



大会議室のブース展示から

事前ポスター展示 区役所ロビー
2月17日～2月28日



発表終えてホッとひといき楽しいワークショップ



野菜の抽選をする和光大学生



児童生徒用のヘルスメイトの地場産ランチ



地球温暖化によって農作物も多大な影響を受けています。麻生区産の野菜やお米の確保に難儀しましたが、お米は長谷川勉さん、万福寺人参は鈴木章夫さん、のらぼう菜などは長瀬和徳さんにご協力頂きました。

『2025 里山フォーラム in 麻生資料集 24』は麻生区役所ホームページに掲載されています。

〔参加団体・施設一覧表(資料集参加を含む)〕

- * はるひ野里山学校 * 水辺のある里山を守る会 * 小沢城址里山の会 * 黒川里楽塾 * 授産学園 * 多摩美みどりの会 * 麻生多摩美の森の会 * 高石みどりの会 * はぐるま稗原農園 * 麻生プレーパークを創る会 * ふらっと新百合ヶ丘 * あさお生きごみ隊 * 森もりクラブ * 柿生の里クラブ * まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ * 虹ヶ丘おやじの会 * 花と市民参加の会"コスモス" * 吹込クローバーの会 * があでん・ららら * 早野聖地公園里山ボランティア * 麻生市民館岡上分館 * 岡上郷土誌会 * 和光大学・かわ道楽 * NPO かわさき自然と共生の会 * 和光大学地域連携研究センター * 麻生区クールアース推進委員会 * 麻生ヤマユリ植栽普及会 * かわさきかえるプロジェクト * グループ「せっけんの家」 * 万福寺人参友の会 * 麻生区子ども会連合会 * 麻生区地域教育会議 * かながわトラストみどり財団 * 川崎市環境局総務部企画課 * 川崎市建設緑政局緑政部 * 川崎市緑化フェア推進室 * ヘルスメイト

〔2025 フォーラムで力を合わせたボランティア スタッフ・幹事〕角南ゆり絵, 植田聡子, 内海陽子, 豊川真奈, 杉山茂一, 石井信, 雑倉正人, 矢野敬二, 高橋靖, 上子道雄, 山口幸紀, 川名和恵, 小田桐浩, 浜田富美恵, 高部智明, 高部和久, 中島和夫, 七久保文男, 清水眞子, 鶴見壺, 小柳遥歌, 宮田萌史, 窪田迅郎, 宮河悦子, 田中肇, 岡本剛介, 堂前雅史, 高部由美子, 石井よし子

感謝 里山フォーラムの講座やイベントへの参加者の皆様、講師を務めてくれた先生方、伴走してくれた生涯学習支援課職員はじめ市民館職員の皆様、各小学校、金程中学校、団体や施設の皆様、力を合わせてくれたスタッフ、幹事に深く御礼申し上げます。また里山こどもクラブの開催にあたっては公益財団法人都市緑化機構の方々にもお世話になりました。

里山こどもクラブ (2024 年度 高原環境財団助成事業)

第1回 10月6日(日曜) 10:00~12:00

「ちょっとのぞいてみよう 植物や虫たちの生きる知恵」

・会場 麻生市民館 実習室

・講師 高柳芳恵(ナチュラリスト・科学絵本作家)



里山こどもクラブ全4回の第1回目。学校も学年も異なる子どもたちが初めて出会う日です。



「足元の自然を学び、体験するってどんなことかな?」「セミのぬけ殻」を見つけられなかったんだけど…」とちょっと不安げな面持ちでしたが、子どもたちは直ぐに興味津々元気です。保護者も、ともに学び体験する仲間としての参加です。

夏の高温の暑さがまだ残る10月初め、室内でじっくり観察学習ができました。「それぞれの生き物のそれぞれの

知恵を学び、考える」ことにチャレンジです。高柳先生のように「どうやって生きて来たの? どうして生きてるの?」と問いかけながら、好奇心をいっぱいにして、見て・触って・作業して、自然はすごいと気づき、感動する幸せ時間でした。



★セミのぬけ殻をじっくり観察

脱皮したぬけ殻には全て残っているとよく分かりました。(セミのぬけ殻は丈夫で前足が太くしっかりしている。幼虫は土のなかを掘り進んで来るから? またセミは口針を樹皮に刺して樹液を吸うが、ぬけ殻の口の部分を折ると黒い針が現れる。枯れた細い枝に産卵管(のこぎりのような鞘)で穴をあけて産卵し次世代に繋いでいる etc.)



★ふしぎ発見! 木の枝であそぼう

せっかちな枝、早く大きくなりたいなあ とぐーんと伸びた枝であそぼう! ①コウゾは繊維が強い(樹皮をむいてペットボトルのキャップでこすると繊維が現れる。繊維が強く長い⇒丈夫な枝で折れにくい 和紙の原料) ②ヤナギの枝の皮ははがれやすい(皮をむいた柳の刀のチャンバラごっこで覚えた木の個性) ③ヤマブキの枝は手抜き枝(ずいぶん発泡スチロールのようで栄養がない。ずいぶん抜き遊びに夢中) ④ウツギ(空木, 卯木)の枝は木のビーズ、笛になるなど絵本を通して楽しく学びました。



★1冊の科学絵本から、考えをひろげてみよう と挙げてくださったのが『つかったのはだれ? はやしのなかのげいじゅつか』(山口進著 福音館書店)という絵本です。

ハチの巣の素材はみんな違う。アシナガバチは木を削って、口で表皮を削って靱皮繊維だけを使っています。スズメバチの巣は木のどの部分にもある短い繊維を利用してやわらかくもろい巣。いわば和紙と洋紙の違いでしょうか。トクリバチの巣は乾いた土と口から出した液をまぜたもので作っていて、水を通さないが空気は通す、水に漬けても溶けないという優れもの。



(高柳先生が用意してくれたアシナガバチの巣とスズメバチの巣)

いのちをつなぐ工夫をこらす生きものたちのお話が満載でした。「生きものは、手抜きをしない最善のことをする」ということがみんなに伝わって行きますようにと願う回でした。

第2回 10月27日(日曜) 10:00~12:00

「いろんな木の実や草の実があるよ たくさん遊ぼう！」

・会場 新百合ヶ丘駅南口-マブレ-こやのさ緑道-昭和音大前や周辺

・講師 高柳芳恵(ナチュラリスト・科学絵本作家)



トチノミの泡立ち

川崎市の新都心としてビルが並ぶ新百合ヶ丘駅界限でも、高柳さんの案内のもと、目を凝らすと多様な自然が息づいていました。いつもは素通りしてしまう街中の自然でたくさん遊ぶことができました。

① マブレ前の歩道の植え込みを観察しているとエノキの葉に中国からの外来種アカボシゴマダラの幼虫がいたり、アオツツラフジの青い実がたくさんありました。あちこちには外来種のハムシに食べられてレース状になったクズの葉が。8年前から見られるようになったとのこと



② 開発前の地形をいかした「こやのさ緑道」には沢山の木々が植栽され、大きくなりました。ドングリもたくさん拾えました(マテバシイ,スダジイ,コナラ,シラカシ,アラカシ,ウバメガシ)。がなんて言ってもエンジュの実で泡遊びに夢中になりました。あらかじめ用意してくれていたトチノミもとてもよくあわ立ちます。ジョロウグモは秋だけ金色の糸を吐くそうです。確かに糸が金色に見えてきました。特筆すべきは前回学習したトックリバチの巣がマテバシイの葉の上にあったこと。実際に発見できて小躍りして喜びました。



③ 昭和音大前や遊歩道にもいろいろな花や実や葉があり遊びや観察が続きました。モッコクの赤い実、マメガキもありました。クロガネモチの葉の裏に文字が書けました。カクレミノの葉の形をいかしてグーチョキパーとじゃんけん大会をし、街路樹のトチノキの観察、クスノキ、ヒマラヤスギと帰路に着きがたい時間でした。高柳さんからは「どんな木でも花が咲き実を付けます。街中の身近な場所だから1年を通して観察してみましよう」とメッセージ。



第3回 11月17日(日曜) 10:00~12:00

「来て 見て さわって “黒川谷ツ公園” を知ろう！」

・会場 黒川緑農会館、黒川谷ツ公園

・講師 はるひ野里山学校 小峯聡、小峯美香、原栄一、斎木義則、斎木由紀子、高田芳昭、夏目昌弘



子どもが見つけ
撮った
ミヤマアカネ

はるひ野谷ツ公園は、はるひ野駅北口直ぐにあります。小田急多摩線と京王相模原線に挟まるように残された田んぼや水辺のある公園です。谷ツという名称が表しているように、田んぼ、水辺のある里山環境で、生き物や植物のための公園として、閉鎖管理で、はるひ野里山学校の皆さんが手を入れて生物多様性を保全しています。

前半でお話を聞き、映像を見た子どもたちは、待ち望んでいたかのように、暖かい陽射しが降り注ぐ中、雑木林から田んぼへと降りていきました。生き物を見つけ捕まえようとする子どもたちは意欲と勢いに満ち溢れ、おとなも子どもに返って、がさがさと網を揺らし、生き活きしていました。

はるひ野里山学校の皆さんが、講義・展示物・資料・道具など万全の準備をしてくれたからこそその自然とともに過ごすことが出来た充実した時間でした。



里山でBINGO!

田んぼで ガサガサ体験 たいけん たいけん たいけん	すいせいせいぶつ 水生生物 かんさつ かんさつ かんさつ	こんちゆう 昆虫を さが さが さが
きくさのみ 木・草の実を さが さが さが	秋	あおぞら専科コーナーで クイズに 答えよう!
どんななはな どんな花が 咲いてる?	キノコを さが さが さが	あきいろは 秋色の葉を み み み

※ には、つかまえたもの、見たもの、答えなどを書こう



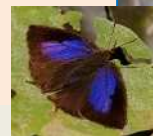
捕獲したものはバケツや種類別にケースに分類して観察しました。
アメリカザリガニ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ヤゴ(ギンヤンマ系、シオカラ系、マルタンヤンマ)、センブリの幼虫、マツモムシ、コマツモムシ、カワニナ、など



第4回 12月1日(日曜) 10:00~12:00

「柿生の里の収穫祭 作業する-作る-恵みを味わう」

- ・会場 おっ越し山ふれあいの森～柿生の里特別緑地保全地区
- ・講師 柿生の里クラブ 石井よし子代表ほかメンバー



ノササゲの実
ムラサキツバメ

晴れた青空のもと、柿生の里山を思いっきり楽しんだ一日でした。

柿生駅～おっ越し山～柿生の里散歩道～柿生の里へと秋から冬への自然の変化を感じ観察しながら歩いていくと、山伏のほら貝の音が聞こえてきます。広場では、雑木林の生物多様性をめざしてボランティア活動を継続している柿生の里クラブのメンバーが親子を迎えます。

「笑う門には福来る竹ワークショップ」モウソウチクの節を斜めに切るというちょっと難しいノコギリ体験も助け合いながら全員ができました！緑地内の花や実で飾り付けに夢中です。



「遊ぼうパン」炭の遠赤外線で焼いたパンや焼き芋は格別の美味しさです。篠竹の切りだし、煮沸消毒と準備作業が大変ですが、子どもたちの笑顔にスタッフ一同安堵しました。全4回に参加した子どもたちにはふるさとナチュラリスト証の授与がなされ、これからも学びや実習を重ねて成長していくよう期待をこめました。



からむし講座



麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)を学ぶ講座です。毎年繊維がとりやすい6月から7月にかけて開催します。講座では縄文時代からの人と自然のかかわり-文化を紡ぎ、次世代に伝えようと試みています。

からむしボランティア 研修

カラムシという植物を知って、古代から身近な植物を発見しどう利用してきたかを学び、麻生区のカラムシを使って苧引き(繊維を取り出す)や糸づくり、縄作り、編布などを行い子どもたちの学習を手助けする研修です。

■7月15日(月曜-祝日)、7月28日(日曜)の2回 麻生市民館 料理室 で開催し ■8月3日の「親子で楽しむからむしワークショップ~縄文をつくろう」の事前学習とその準備を行いました。

からむし ボランティア研修

7月28日(日曜)

午前9時30分~12時

麻生市民館 料理室・実習室

- カラムシを知ろう 繊維を取り出す(苧引き) 撚る・編む 縄文原体づくり 縄文皿にチャレンジ
 - ・ 参加費 無料・持物 飲料、タオル、雑巾 ◎ 定員 10名程度
 - 案内 石井よし子(麻生のからむし探検家・里山フォーラム in 麻生事務局長)
 - 協力 里山フォーラム in 麻生 からむしスタッフ
- 8月3日の「親子で楽しむからむしワークショップ 縄文をつくろう」(別ちらし参照)の準備をします。

記録映画上映会

「フーンミの島 沖縄県宮古諸島の苧麻文化」

7月28日(日曜)

午後1時~3時

麻生市民館 実習室

監督:春日聡(国立歴史民俗博物館 客員准教授)

制作:国立歴史民俗博物館

- 春日監督の言葉が裏面に掲載しています。ご覧ください。
- ・ 参加費 無料 ◎ 定員 20名程度

これまで豪雪地帯である福島県大沼郡昭和村での記録映像『からむしと麻』を拠り所に講座を進めてきました。今回、温暖な宮古諸島の記録映像に出会い、その違いに驚き気づかされることも多く、麻生区でどう取り組んで行くかを深く考えさせられる上映会となりました。



8月3日(土曜)

あさおしみんかん じっしょうしつ
麻生市民館 実習室
午前9時~12時



麻生区の地名が由来する植物 麻からむし(苧麻)

からむしで「縄文」にチャレンジ!

- * 縄文人は何を見つけたのかな?
- * どうしたら「縄文」ができるの?
- * 縄文で素焼きのお皿をつくってみよう

— 黒川%10遊廓の石孔器付土器

- 講師 栗田一生(川崎市教育委員会文化財課 学芸員) 発掘された縄文土器や布目瓦の实物に出会えるよ
- 協力 里山フォーラム-からむしボランティア



川崎市文化財課の栗田一生さんから「縄文」を学び、からむしボランティアの助けを借りながら「縄文原体」を作り、粘土で作った皿や壺に押し回したりしながら模様を付けました。縄文遺跡が多い麻生区はその時代と繋がって今があるような実感がして来て不思議。



万福寺鮮紅大長人参 (通称：万福寺人参)

万福寺鮮紅大長人参は、現在の麻生区万福寺とその周辺地区のかつての特産品で、全国野菜品評会において昭和 29 年から 5 年連続で日本一になった人参です。

この人参は畑の土づくりに励み幾多の困難を乗り越えると 80 cm-90 cm 級の長さに成長しますが、努力を重ねてもなかなかそうはいかないのも、毎年栽培に挑戦する力になると語る栽培者の方々もいます。甘みが強くこくがありお正月はこの人参が欠かせなくなります。先人たちの苦勞に思いを馳せ、工夫を凝らしながら畑作業をしての作品が毎年 12 月の品評会に集まってきます。



12 月 21 日 (土曜) 《第 25 回万福寺人参品評会-私の万福寺人参を語り合う会-》を迎えました。出品に漕ぎつけた人参が 21 組でした。

(万福寺人参友の会共催)

なお今年度も味覚賞は審査できませんでしたが、審査委員(長瀬和徳 岩本陽児 山本奈保美 相澤悟)による厳正な審査のもと、以下の賞が決まりました。

- ・最優秀賞-小林貴也(黒川東)・姿(ルックス)賞-鈴木章夫(古沢大久保)・色彩賞-佐藤来夢(明治大学生田)・香り賞-二見萌菜(明治大学生田)・努力賞-金程小学校 2 年生(金程)・努力賞-古川美賀(黒川東)・ユニーク賞-大森勝司(宮前区平)



糖度計を導入。
11 度になるもの
もありました。

ティータイムはヘルスメイトが試食を繰り返して焼いてくれた万福寺人参ケーキを楽しみました。



審査中、参加者は別室で「私の万福寺人参を語り合う会」を行いました。酷暑が続きましたがこの人参の種蒔き適期 (=7 月中旬) には丁度お湿りもあり昨年度のように何回もの蒔き直しをしなくて済んだようです。



明治大学生の取組み(アスパラガスの後に蒔き育ててみた等々の実験的な栽培)を聞いて、会場では質疑が続きました。虫対策など栽培への更なる工夫をしようという意欲に満ちた会になりました。

全国都市緑化かわさきフェアに里山として参加しました(生田緑地)。秋 11 月 1 日 春 3 月 30 日



主催 里山フォーラム in 麻生/麻生区生涯学習支援課(麻生市民館)

里山フォーラム E-mail satoyamaforum@gmail.com TEL 070-6426-6123

麻生市民館 TEL 044-951-1300

令和 6 年度 麻生区地域課題対応事業-麻生里地里山保全推進事業

だより編集、文責-石井よし子

写真-難倉正人 山口幸紀

田中肇 石井よし子